

1. 活動報告（事務局 記）

- 7月23日（土）「フジときららネットこどもエコクラブ」の自然観察会が有りました。
当会から松本・管・前田・西原会員が講師及び案内役で参加されました。
ビオトープの生き物ビンゴゲームや、須賀河内川の水遊び沢登などをして大変有意義で楽しかったと世話人の吉富さんのお話がありました。

- 7月27日（水）中国電力（株）宇部電力所の柴田課長他午前中13名、午後14名でボランティア活動として須賀河内川先の草刈り取った葦を片づけていただきました。
川底も一部手で刈り取ったり、水の流れを整備していただき素晴らしい眺めとなりました。
当会から吉富匡、渡辺正、原田事務局とでさらに草刈も行いました。

- 7月30日（土）8月6日に行われます親子自然観察会「水棲動物の観察」のため須賀河内川の清瀬峡まで調査、障害物除去作業と止水池土手の草刈と最終刈った草の処分を行いました。参加者は 関根・西原・前田・渡辺正・原田マでした。

- 8月05日（金）ビオトープ土地購入資金市長へ贈呈式 今井会長・原田副会長参加

- 8月06日（土） 第5回親子自然観察会「川の生き物」
親子自然観察会は雨模様で集まる会員の方も戸惑いでしたが、無事須賀河内川と、ビオトープにて川の生き物、ビオトープ水中動物を捕獲し観察しました。
珍しい魚が今年も少なくなってきましたが、カワムツが数十匹も捕獲されました。カニ、オヤニラミ、ドジョウが彩りを添えてくれました。
参加者は10名、親会員7名、つくる会会員12名、他山大関根教室の6名の応援も有りました。

- 8月07日（日）厚東中学校野球部3名の方がビオトープに奉仕作業に来てくれました。
①池の中のカヤツリグサ、イグサの間引き
②田んぼのイナゴ捕獲をして頂きました。
当会の指導者は今井、原田（賢）、前田、原田（満）で対応しました。

- 8月20日（土）計画通り湿地帯・ため池ゾーンのスゲ・イグサ・カヤツリグサの間引きを行いました。池の島の草刈や田んぼの周囲の草刈も行いました。
また田んぼの猪の防護電気柵を設置しましたがバッテリーは新規購入しなくてはならないこと・雨防護の処置が必要で近日中に地区会員によって完了させます。

2. 今後の予定（事務局 記）

◎ 見学者

11月末 宇部探検倶楽部 山本美緒さんから見学予定の連絡あり

◎行事

—9月04日（日）維持活動（草刈、修復作業）

—9月17日（土）維持活動（エコアップ・游ロード整備）

3. 来訪者の声（東屋のノートより一部抜粋）

—8月5日（金）秋に二俣瀬を歩くプログラムを企画しており、下見に来させていだ
きました。とんぼ4～5種、魚、バッタに蟬の声。生命力あふれる光景でした。

うべ探検倶楽部 山本美緒

4. 会員の声 「 」 （ 記 ）

今月はありません。

5. 親子自然観察会「川の生き物」

（8月06日、子供10名、保護者7名、会員12名、学生6名）

① 指導 田村、伊原、吉富、藤村、内藤、渡辺、松本、原田マ

ジュニア隊員はビオトープ内とビオトープ横の須賀河内川での観察を行いました
が草原内の川では絶滅危惧種のトチカガミをより分けてドジョウ、ヌマエビ、モエビ、オタ
マジャクシが捕れました。ため池内の深みで籠罟にはカワムツ、真ブナが数分で数匹捕れ、
須賀河内川ではカワムツの25cm級が数匹釣ることが出来ました。投網を使った捕獲は
残念ながら使い慣れていないため1匹も捕れませんでした。

高学年の沢登とも併せ珍しい魚が今年も少なくなってきましたが、カワムツが数十匹も捕
獲されました。

② 指導 関根、西原、金子、中本、山大学生2名

5名の子供たちにライフジャケットとヘルメットを付けさせて、ビオトープ横から須賀河
内川を上流へと登って行った。子供の親も3名同行された。網で魚や水生昆虫を捕まえな
がら進んでいくと、大きな滝が待っていた。ロープを使って一人ずつ上げて行ったが、滝
壺は大人の胸位まであり、子供達も苦勞していた。清瀬峡の上部まで行ったが、子供達も
満足しており、我々スタッフも十分楽しんだ。帰りに途中仕掛けておいた籠罟を回収しな
がらビオトープへ向かった。網で捕まえた主なものは、カワムツ、スジエビ、水生昆虫の
コオニヤンマ・オニヤンマのヤゴであり、籠にはカワムツとモクズガニが入っていた。

ビオトープに帰ってから、須賀河内川で再度ワナを仕掛けた。今度はカワムツに交じって
ムギツク、オヤニラミなどが捕れたのが収穫だった。



川の探険（清瀬峡の滝）



川の探険（捕ったものを確認）

6. ビオトープ関連（ビオトープのトンボたち）（管 哲郎 記）

（39）コシアキトンボ（トンボ科・コシアキトンボ属）*Pseudothemis zonata*

5月の終わり頃より8月初め頃まで見られ、若い未熟なトンボは池の近くの空き地をゆったりと飛翔し、黒に白の大きな帯を持ち腰の間があいているように見えることから、コシアキトンボと名づけられたと思われます。成長するとオスは池の一部分を縄張りにし池の上を飛び回ります。

樹陰の多い池や、河川の淀み、公園の池などを好むようです。6月が池周りでよく見られます。



コシアキトンボ（♂）



コシアキトンボ（♀）



コシアキトンボの羽化（♂）



コシアキトンボの羽化（♀）

7. 会よりの連絡事項 (事務局より)

退会者の報告 藤本サキミさん

8. 編集後記

先日、育成部長を務めさせて頂いている二俣瀬ミニバス(スポーツ少年団)の10周年記念行事が終わりました。

ビオトープで見かけた小学生も20歳を迎えての参加で少し恥ずかしそうにしてみました、手加減してバスケットをしていた子供達に今は手加減をしてもらいながらの試合です。

なんだかとても、幸せな時間を送れました・・・

今、テレビで24時間テレビが映ってます・・・

忘れかけていた物を、また思い出してます・・・

言葉にするのは難しいですが、頑張るぞ日本!

(若林 正治 記)

ビオトープは、四季折々にいろんな表情を見せてくれる。訪れるたびに、様々な発見があり、楽しみにしている。青い空に入道雲。野や山に満ち溢れるまぶしいほどの緑。夏の盛りにビオトープを訪れると、夏の代名詞のような風景に出会える。私は、この田園風景が好きだ。風が吹き抜けると、一斉に青々とした稲がそよぎ、青田波が広がる。何年か前にはその美しさに惹かれて、青田の写真ばかりをたくさん撮ったこともある。

夏のビオトープは、生命力に溢れている。刈った端から伸びる雑草たちには、訪れるたびに驚かされる。みなで大掛かりに草刈をしたあとには、散髪をし終えたばかりのお父さんの頭を見るようで気持ちよいが、2週間後に訪れると、すっかり元に戻ってしまっている。

そんな自然の生命力に驚かされながら、自然との折り合いをつけながら、人は生きているのだろうか。ビオトープの維持活動に参加しながら、私はそんなことを思っている。

(中本 亜矢子 記)